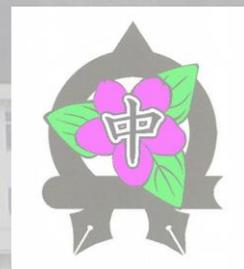


協働



目標をもって取り組む、挑戦が可能性を広げる

校長 西村 元一

体育大会に向けた取組が始まり、学校に活気が出てきました。

入学式では、私が新規採用で教員になったときの A 君の話をしました。A 君は、1 年 1 学期からの 3 年間の成績がずっと同じでした。当時は、技術・家庭科が男女別学で、男子は技術科を学んでいましたが、彼の成績は技術科が「5」で、他教科はオール「1」という極端な成績でした。技術科の勉強だけは、人一倍力を注いだそうです。その理由は、1 年の頃から自動車整備工を目指していたからです。希望がかない、卒業後は住み込みで自動車整備の仕事に就き、その後、独学で整備工 3 級に合格したとの報告を受けました。

しかし、もし卒業後に自動車整備の仕事に就けなかったら、彼は他にどんな生き方ができたでしょうか。厳しい現実が待っていたはずです。

彼からの学びは、次の 2 点です。目標をもった人間は強い。ぶれることなく目標に向かって進める。そしてもう一つは、可能性を狭めることの危険性です。目標をもちつつ、様々なことに挑戦しながら、自分のできることを増やし、自己の可能性を広げることも大切です。

4 月の朝礼では、サッカー日本代表の原口元気選手の話をしました。原口選手が浦和レッズからドイツのプロチームに移籍し、数年たった時の話です。当時、反転力を上げるために、体幹、特に腹筋の強化という大変地味な目標に取り組んでいました。彼が言うには、「自分に足りないと思ったら、どんなに地味であってもその足りないものを手に入れるために具体的な方法を決めて、地道に進めていくことしか、レベルアップの方法が思い浮かばない。それが成果として現れる保証はないし、努力は段階的に成果を生んでいくのではなく、ある時突然現れる。まるで、雲をつかむような目に見えない成果のために、決めたことを地道に進める他に、より高いところへ到達する方法が見当たらない」とのことです。

体育大会が迫ってきましたが、個々の生徒が自分なりの目標をもち、達成に向け具体的な取組を決めて挑戦し、自己の可能性を広げてほしいと思います。